

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあらかきのお家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	千葉県我孫子市新木1454-1
記入者名 (管理者)	片山 美代子
記入日	平成 19 年 10 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	少人数制・質の向上・人間尊重等をうたうことによって、「心のかよった最高の介護環境の提供」を法人独自の理念として提唱している。	○	当法人の存在と地域とのかかわりをさらに深めてたい。地域の老人会や文化祭などへの積極的な参加をし地域に認知される施設になりたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	玄関に掲示するほか、職員にも配布し、理念の共有・実践に取り組んでいる。	○	当法人のケア方針は、介護を受ける人がもし健常者だったらどうしてほしいのかを見極めて介護することになっている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	入居時契約にて理念を家族に説明している。また、事業所HPにて法人理念を掲載し多くの方々に公表している。	○	家族との交流会を通じて周知徹底する。及び、認知症サポーター研修を市内各地で開催し、認知症に対し正しい理解と偏見をなくす。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている</p>	小学校に隣接している為、小学校の行事に参加したり学校帰りの児童に立ち寄ってもらったりと、利用者や児童の交流に努めている。	○	施設を開放し、庭先セールなどを行っている。地域の方に認知症を理解していただく為、見学会や相談会等を開いていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	小学校でおこなわれる運動会やどんと焼きなどを観覧・参加する他、近隣センターで開催されている交流サロンに参加。また、ボランティアの受入を積極的におこない、傾聴ボランティアをはじめとした多くのボランティア受入施設として努めている。	○	年に数回、小学生の体験学習等で児童が来所している。今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力にに応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症専門施設として多くの問い合わせ・見学があり、介護サービスの利用の仕方や入居先の選択等をお伝えしている。	○	施設を開放し、見学や認知症に関する相談などを積極的に受け入れ地域貢献している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価実施前及び終了後、スタッフ会議で話し合いの場を持ち、調査日当日勤務ではない職員とも共通の認識を持ち、取り組んでいる。	○	利用者及び家族の意見にも耳を傾け、ケアの向上に取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に利用者及びそのご家族にも参加してもらい、積極的な意見交換をおこなうことにより、運営する上での貴重なご意見をいただいている。	○	運営推進会議を通じて外部の意見を聴取し、地域に密着したケア活動に取り組む。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内で初のグループホームとして設立当初から市と連携を図りながら運営してきた。現在、法人職員が、認定情報審査会にメンバーの1人として参加。	○	我孫子市介護支援課と連携を深める為に、当方から出向き、ご指導を仰ぐ機会を設ける。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人理事に司法書士の方がいることから、後見人制度についてアドバイスをいただき、制度を手続きした利用者家族もいる。	○	認知症サポーター研修を通じて成年後見制度の啓蒙活動をおこなう。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束事態を禁止しているので虐待はないと認識している。	○	管理者が、スタッフ会議等を通じて日頃から虐待防止について問題提議し、そういう事態が発生しないように注意している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結時及び解約時は勿論のこと、ご家族には常時お気軽に立ち寄っていただいております、その都度不安・疑問点の解消に努めている。</p>	<p>○</p> <p>入居に当たっては、事前見学、お試し利用、ケアマネージャー、管理者、理事などの面接を重ね、十分な納得度を得ている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族⇔入居者間ノートを用意し、施設をとおさず利用者が不満を家族に言える機会を設けている。また、管理者や職員に話があった場合には、スタッフ会議で話し合い、運営・ケアプランに反映させている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の気持ちをスタッフが注意して聞き逃さないよう心がけている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族来訪時には、介護計画をもとに話し合いを行っている。また、毎月施設だよりを発行し、施設の取り組みを報告している。</p>	<p>○</p> <p>各人の状況は、レターやグループホーム便りを通じて報告している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に「理事長への手紙」BOXを設置し、意見の受入をおこなっている。また、市役所及び社会福祉協議会への連絡先を入居時契約書及び玄関に掲示しており、外部への相談についても支援している。</p>	<p>○</p> <p>「不満のある方は申し出てください」と掲示して意見を出しやすいよう「配慮している。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議及び管理者企画会議を毎月開催し、意見交換を積極的にこなしている。</p>	<p>○</p> <p>日々の申し送りの中で職員の意見を聞き、現場に反映させている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>催しの開催や外出の機会を積極的に設け、それにとめない勤務の調整をおこなっている。</p>	<p>○</p> <p>管理者はできる限りフリーな状態であるように努め、急病や受診時などの対応をしている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>まずは離職がないよう最大限に努め、万が一代わる場合は新任研修時に利用者の特徴などを引き継いでいる。この半年ほどは退職者もなく、安定した介護をおこなっている。</p>	<p>○</p> <p>管理者は職員が働きやすい環境を整えるよう努力をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成19年度は毎月開催されている近隣施設での勉強会に参加を呼びかける他、千葉県グループホーム連絡会が開催した研修に管理者を参加させ、他施設の見学などを積極的に進めている。	○ 職員の個人別育成テーマを整理し、その人に合致した外部研修に積極的に参加を促している。 研修結果をスタッフ会議等を通じて他のスタッフへ水平展開をおこなう。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記にも記載した近隣施設での勉強会に参加するなど、交流する機会を設け、施設運営に反映させている。	○ 外部研修を通じて同業者の職員との交流で、当事業所の優れたところや今一步の部分などを抽出してケア内容向上に努める。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場内での悩み・ストレスを理事がまめに確認し、軽減に向けてのサポートをおこなっている。	○ 職員同士の交流会を行い、お互いの悩みが話せるような場を作るよう努力したい。(忘年会や暑気払い等)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力を職員間にメールでお知らせしたりと評価している。	○ 管理者は個々の職員の努力を認め、研修等への参加を勧め、職員に向上心を養ってもらえるよう援助する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用にいたるまでに本人とも直接お会いし、様子を拝見させていただくほか、おためし体験などもおこない、本人と会話を積極的に交わし、ご様子を伺うよう努めている。	○ 入所時に本人の生活歴を個人情報として家族から提供していただき、これまでの生活を踏まえた介護計画を構築し、信頼をうる努力を重ねる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学を積極的に受入、現在おこなっているケアの状況を見ていただくことによって、家族の希望を聞きながらケア体制の説明をおこなっている。	○ これまでの家での生活ぶりを聴取して家族の希望や本人の意向を重視して対応し、相互の信頼の醸成に配慮する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を積極的に受入、グループホームの長所短所、通所を含めた他施設のサービスの説明をおこなっている。	○	入所に当たっての家族面談と本人面談を管理者、ケアマネ、理事で行い、初期対応を決める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時の本人への状況説明・対応を家族と相談し、職員統一した認識でお迎えしている。	○	デイサービスからの入居者においてはデイを利用した流れでグループホームへ来ていただき、グループホームからデイにも行けるように対応している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「介護する」のではなく、自立した生活を共に送る中で、見守りサポートしていくよう心がけている。	○	本人のできる事は進んでやっていただき、生活全般をアクティブと捉え、協力しながら生活している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の催しを定期的で開催し、施設と家族が共にケアを考えていく姿勢をとっている。	○	外出時には家族の参加を呼びかけ、共有した時間を過ごすように努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご請求書のお知らせや各種催しなど定期的にご家族に訪していただき、本人と家族が会話する機会をなるべく多くもうけ、よりよい関係になるよう支援している。	○	家族との時間を持っていただけるように、ご自宅への帰宅や外食等を積極的にお願している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各居室は、本人がいままで使っていたなじみのある家具をお持ちいただき、とまどいが少しでもないよう配慮している。	○	時々日帰り帰宅をケアプランに取り入れていく。自宅への思いやご近所との人間関係を回想することで関係が途切れないようにしたい。また、なじみの人々の来訪を促したりしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性・介護度を考慮の上席配置などを検討し、孤立せず会話が弾むよう工夫している。	○	会話の中には必ずスタッフが入り、話を盛り上げるよう努力している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームでのサービス利用の終了というと、老健・特養などへの入居がほとんどだが、機会があるたびにお見舞い、ご様子を伺っている。	○	過去の利用者の動向については、ケアマネージャーや家族から情報収集している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画見直し時に、必ず本人と家族よりサービスや暮らし方について希望や意向を伺っている。	○	引き続き、利用者や家族の思い・希望・意向の把握に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにはセンター方式を使用しており、入居時の面接記録の際に生活歴やなじみの暮らし方などの情報の把握に努めている。 家族の面会が頻繁にあり、その折にも情報を得ている。	○	本人や家族と話す機会に、本人についての生活歴・なじみの暮らしの仕方等、情報の収集を継続して努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活援助計画(ケアプラン)はICFの技法を活用し、利用者の「できること」を中心にしている。入居者は全員女性であり、家事を行うことにやりがいを感じ積極的・自発的に取り組んでいる。	○	個人別日誌の記帳やスタッフ会議での話し合いを、常時おこなっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議の時に担当者会議を行い、ケアプランについてスタッフから意見や利用者の状況についてモニタリングし、結果を議題にしている。 日常的に、申し送りやスタッフの話の中から議題を出してもらっている。	○	利用者に変化があった時の担当者会議を随時行うことができる仕組みを整えたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヵ月毎としているが、変化があった時には随時の見直しをしている。 介護計画作成時と見直し時には必ず家族に説明し同意をいただいている。	○	一ヶ月に一回のモニタリングを全員に実施したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時には必ずスタッフ間での連絡を行い、その場にはいないスタッフへも申し送りしておくよう指示している。又、連絡ノートを使って申し送りをしている。	○	何かあった時には後回しにせずその場でノートに書くかメモを取るようしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在小規模多機能型施設は運営していないが、デイサービスをご利用の方でご家庭での介護が難しくなってきた方への相談などを、常時受付、対応している。	○	グループホームに共用型通所介護が出来るよう現在申請中、11月には開設できる見込み。これによりグループホーム入居者への刺激となることを期待している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々はもちろんのこと、防災訓練の際には消防のかたにもご協力いただくなど、必要性にあわせ協力をお願いしている。	○	近隣施設に設置されているAEDをスタッフが対応できるよう、講習などを消防署にお願いし、全員がいざというときに対応できるようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	認知症の進行状況に併せて、特養等の事業者と関係を深め転籍相談などをおこなっている。	○	ご本人のためにどう対応することが一番かを考え、それにふさわしい事業者があれば、地域のケアマネジャーやご家族などと話し合い対応している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加、グループホームの現状を見ていただき、適宜アドバイスをいただいている。	○	12月より市民後見人養成講座を実施する予定。地域包括支援センターである我孫子市介護支援課にも後援・協力を取り付けている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携先病院による定期的往診を実施。長期にわたって同じドクターに本人の様子を見ていただいている。	○	基本的にかかりつけ医を優先した対応をおこなっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人理事長が精神福祉士の資格をもっており、利用者の様子を見ながら適宜職員にアドバイスをおこなっている。	○	提携医院、病院に医療相談をおこなっている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が日々のバイタルチェック・健康体操・薬管理等をおこない、利用者の健康管理をおこなっている。	○	看護師とは絶えず連絡が取れるようにし、事が起きたときにすばやい対応が出来る体制を整えている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、病院側に利用者の身体状況(介助の状況や認知症状)を情報提供し、入院中の配慮をお願いしている。	○	入院された利用者に対しては、日々の状況を把握し、早期退院が可能となるよう万全を期している。」
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを希望されるご家族がほとんどであり、その場合は家族との連携が不可欠であることから、重度化になる前の段階から往診で様子を見ていただき、話し合っている。	○	ターミナルケアの必要性がますます高まってきており、できるだけ対応したいと考えている。医療行為の伴うことについては、介護職員は手が出せずおのずと限界を感じる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ワンユニット少人数対応のメリットを活かし、個々の状態にあわせバイタルチェック表などを用意し、日々の変化を確認、気になる点にかんしてはかかりつけ医と連絡を取って対応している。	○	家族の希望を事前に把握し、希望に添った対応をおこないたい。家族の支援が必要不可欠である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから他施設へ移居される場合は、本人の身体状況の情報提供し、今後のケアに役立てていただければと支援している。	○	利用者ご本人にとってどう対応するかは、人それぞれに違うので日頃の生活の様子を移転先に情報として提供し出来るだけダメージがないように配慮したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人理念でも個人の尊厳をうたっており、入社時職員には赤ちゃん言葉で声かけするのではなく、人生の先輩として対応するよう指導している。	○ 上からも言うような言葉遣いは厳禁としているが、日々の生活の中でついそのような言葉遣いが出てしまう時にはその都度注意していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話のやりとりができない方もいるが、何が希望なのか常に話しかけながら穏やかに暮らせるよう努めている。	○ 声掛けを十分に行い、相手を理解する努力を怠らないよう努力する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩好きの方には、もう1人の散歩好きの方と一緒に散歩に行っていたり、できるかぎり希望に添えるよう支援している。	○ 散歩に関しても、早く歩ける方、ゆっくり歩く方、それぞれに個別対応している。アクティブも押し付けではなく自然に楽しめるよう努力している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在、入居者が全員女性であることもあり、折々にお化粧品をしたりマニキュアをしたり支援している。理容に関しては、理容師さんに施設を来訪していただいたり、ご家族にご協力いただき外の理容店に足を運んだりしている。	○ その人らしい服装を支援することで自負心が芽生えてくる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	弁当をもって遠足に行ったり、外食にでかけたりと1番の楽しみである食事をどのように支援していくか工夫している。また、利用者に食事の準備・片付けを手伝っていただき、通常の日常生活がおこなえるよう支援している。	○ 調理員を配置し、栄養バランスの取れた食事を提供している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族の持ってきたおやつ等を自室に備えて日常的に楽しめるよう支援している。	○ 個人別食情報に基づき、嫌いな者を無理強いするようなことがないよう献立を考えたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全介助の利用者にも、日中は2人体制でトイレ介助をおこなうなど、極力自力での排泄を支援している。	○	排泄パターンを把握し、羞恥心を持たせないよう配慮し、失敗体験を出来るだけ少なくしたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフ配置の都合により、なかなか希望に沿った入浴は難しいが、入浴中にはできる限りお話をしたりコミュニケーションをとっている。	○	入浴を通じてコミュニケーションの充実を図るよう心がけている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活動することにより、十分な安眠がとれている。体力的に疲れる方には昼寝をしていただいている。	○	昼夜逆転現象が起こらないよう、日中の過ごし方に注意している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	針仕事や家事・カラオケ・散歩など個々の利用者が得意・楽しみとしていることを見守り、支援している。	○	生活をおこなう為の役割を定めている。お掃除、来客のお茶だし、洗濯物の片付け、食事の後片付け、食材の下ごしらえなど夫々に役割を持っていただいている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を自分で管理している人と普段は施設で預かっている人がいる。近隣センターで開催されているバザーなどには皆でお財布を持って買い物に行ったりと、ショッピングの楽しみを満喫していただいている。	○	時々ガレージセールやスーパーマーケットなどに行ってお買い物体験をおこなっている。お金の大切さを実感していただいている。最近は物取られ被害を訴えるものがいなくなった。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お散歩が好きな方には、戸外に自由にでかけられるよう玄関は開放している。	○	出来るだけ日光に当たっていただくように誘導している。時候の良いときの散歩や遊園地などへのお出かけ、健脚者には自由に散歩させている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1週間に一度は車で季節折々の名所へ外出するほか、不定期ではあるが家族にご協力をいただき、遠足や外食を楽しむ機会を設けている。	○	外食、喫茶、柿狩り、なし狩り、ガレージセールや我孫子公園などでの催し物参加などあらゆる機会を捉えて外出の機会としている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話だとやりとりそのものを忘れてしまうことがほとんどの為、中々会いにこれない家族に手紙を書いていたが、何度でも読み返して思い出せるよう配慮している。また、行事のお知らせ等を本人自らが作成した招待状などでやりとりすることもある。	○	年賀状、暑中見舞い、ホームでの行事案内、時候挨拶など機会を捉えて手紙を出すよう誘導している。家族の来場が少ない家族には出来るだけ来ていただけるようお手紙にてお願いしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	すでにご家族等がまめに来訪してくださったり、外に連れ出してくださるので、感謝とともに対応している。	○	来所者には出来るだけ気を使わせないように配慮している。玄関の鍵もかけず、フリーに入りやすい状況を作っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の廃止を玄関に掲示。入社時職員にも配布をおこない、法人全体で禁止していることを、共通の認識としている。	○	身体拘束などはまったく行ったことがない。利用者と介護職員の意思疎通がよければ拘束しなければならないような状況は生まれないのかもしれない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜以外玄関は施錠していない。	○	鍵をかけていない状況だが、外出されるときは事前に断って外出されているので、これまでに行方不明者が出たことはない。信頼関係のおかげかもしれない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自由に居室・リビングを行き来されているので、随時安否確認に心がけている。	○	介護の基本、声掛け見張りをおこなうことで利用者の安全が保たれる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	人によってはホイルや包み紙などを取り除いた食事をご用意するなど、個々の状態に応じた取り組みをしている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態に合わせて、できる限り個別対応を行っている。スタッフは外部の研修等で知識を学べるように援助している。	○	スタッフ一人ひとりが進んで研修を受けられる環境を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署にお願いし、救急救命講習をスタッフが受けるように準備を進めている。	○	救急事故対応の処置の仕方について、スタッフ会議などで徹底している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所防災マニュアルを作成しており、職員と対応を随時確認している。また消防署に指導を受けながらの防火訓練を実施している。近隣に民家がないため、隣接する地域避難場所に避難する方法を徹底いたしたい。	○	防火規程に基づき、防火訓練を全体で取り組んでいる。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	近年年齢と共に身体機能も低下しており、家族とも来訪時に話をしているが、転倒などを少しでも回避できるよう見守りに気を配っている。	○	ケアプラン作成に当たり、リスク発生懸念について話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	出勤時の申し送りノートの確認、口頭での申し送りの徹底、バイタルチェック等体調変化に気を配り、気になる点がある場合は看護師とすぐに連絡を取り、対応できるよう努めている。	○	時間を決めたバイタルチェックにより身体の変化をチェック。機能訓練体操を通じて身体機能の状況をチェック。食事の量や好みによって体調の変化を知る。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬を管理する箱に薬の目的や用法が明記しており、準備の際に目に付くようにしている。また、分包にて処方してもらい、誤薬防止に努めている。	○	分包薬は中身が似ていることも多いので、分包それぞれに記名してもらい、スタッフは分包に書かれた名前を確認するようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘ぎみの利用者には、水分摂取や排便状況を表にし、管理を心がけている。	○	個人別便通の状況を把握。繊維質を中心とした食材を使った調理。長期の便秘症にかからないよう回数、量のチェックをする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨き誘導をおこなっている。昼食後は特に力を入れ、リビング側の洗面台にて1人ずつ支援対応をおこなっている。	○	歯磨きの習慣を定着。義歯の洗浄、歯茎の鍛錬。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が少ない方には、毎食食事量のチェックをおこない、足りない分をエンシュアにて補っている。また、きざみ食など個々の状態に応じて食事の用意をしている。	○	食事の量を残量から推定し、量的に満足できるものかどうか見過ぎさない。家族が持ち込んだおやつを食べすぎはないかチェックすることも忘れない。水分の量が極端に少ない入居者には記録をつけて補給を的確に行う事に努めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染が心配される時期は、来訪ご家族にも玄関での手の消毒をお願いしている。また、トイレなどはアルコールでの清掃を徹底している。	○	冬期には外出から帰った時には必ず手洗いとうがいを行っている。スタッフにも徹底させている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	介護職員とは別に、調理職員が調理場を担当。食器洗浄機などを使い管理・清掃を徹底している。	○	調理室の清潔維持。 食器類の洗浄に念を入れる。 食材の賞味期限の管理。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチを配置し靴の履き替えが楽におこなえるよう工夫しているほか、利用者さんに楽しんでいただければと、玄関や建物周囲に植物を植えている。	○	玄関の鍵は、夜間を除き原則オープンにしている。個人別履物の置き場を設定しトラブル防止をおこなっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集合するリビングに関しては、日当たり・通気性も良く、くつろげる空間になるよう心がけている。また、春秋にはウッドデッキでお茶したりと、季節感を楽しんでいただいている。	○	共用空間を清潔に保つ努力をしている。ゴミや廊下の汚れなど、発生したらすぐに処理することをモットーにしている。トイレなど利用後は必ずチェックして、汚れはないか、流し忘れはないか名度をチェックする習慣をつけている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ決まった座席があり、リビングに居たい方はほぼ一日リビングで過ごし、必ず話し相手やスタッフと会話ができたりしている。お茶の時間にはスタッフも共にお茶を飲みながら会話を楽しむ。また、玄関前や廊下コーナーにソファを設置し、居室以外で独りになれる空間を提供している。	○	リビングの座席は決めていないが、おのずと仲の良いもの同士が集まり、食事の設定、片付けなど自主的に支援している。 一人一人が好きな場所に座り、作業する者、TVを鑑賞する者など思い思いで過ごしていただいている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れた家具や愛用品を持ち込んでいただき、ご自宅で暮らしていた頃との違和感になるべく少なくなるよう心がけている。	○	時々家具の配置を換えるなど雰囲気を変えている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜窓を開け、換気に努めている。夏は冷房、冬は床暖房と加湿器を設置し、利用者が体調をくずさぬよう心がけている。	○	日中、リビングの日当たりが良過ぎて夏などはとても暑くなるため、何か対策をしていかなければならないと思っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで随所に手すりを設置している。	○	浴室にはリフトを配置し、機能に応じ安全を考えリフトを使用している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個別対応により個々の力を活かせるように対応している。	○	トイレ、浴場の表示など大きく掲げ、識別できるよう配慮している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキで日光浴をしたり、隣接している小学校の様子や景色を見て楽しんでいる。	○	建物の周りが格好の散歩コースとなっている。健脚者には気の済むまで散歩を楽しんでいただいている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

少人数制のグループホームであることを活かし、楽しんでいただくことは勿論のこと、家事掃除から外出まで通常の日常生活を自立して営める支援に努めている。

介護理念の根底に流れるものは、「入居者がもし健常者であったら何を求めているかを考える」を基本とし、介護の実践に当たっては、自己実現のために不足している部分を手助けするという考え方で対応し、その人の持つ能力を最大限引き出すことをモットーとしている。